

西日本豪雨災害後の
広島大学学生ボランティア活動報告書
—アンケート調査の結果より—



広島大学

広島大学学生ボランティアの実態調査について

平成 30 年 6 月 28 日～7 月 8 日にかけて、西日本を中心として全国的に広い範囲で記録された豪雨により災害が発生し、広島大学の施設や、教職員および学生の安否だけでなく、広島大学の周辺にも多大な影響と被害をもたらされました。

これを受け、広島大学は 7 月 7 日に学長を本部長とする災害対策本部を設置しました。災害により帰宅困難となる構成員に対応した女性用と男性用の緊急避難所を開設しました。その後、安否確認システムを用いて、教職員および学生全員に和文と英文で 2 回発信し、安否確認と被災情報の収集を行いました。回答が得られなかった構成員には、100%の回答が得られるまで部局の支援室より電話連絡などで安否確認を実施いたしました。さらに山陽本線と国道 2 号線が利用できないことが 7 月 6 日の時点で明らかになったことにより、全学休講措置を東広島地区では 6 日から 13 日まで実施し、霞と東千田地区では 6 日から 9 日まで実施しました。また、休校措置が終わっても通学できない通学困難者に対しては、学生宿舍の無償貸与を実施しました。

大学内および大学周辺の災害状況の把握を行った後、学内に複数存在するボランティア団体の動きが効果的に実施できるよう、2 年前に広島市内の土砂災害で実績のある課外活動団体である「オペレーションつながり」の代表者と面談し、広島大学の学生がボランティアとして参加する際、大学からの支援の窓口となるように依頼し、この団体の HP を利用して広く広島大学の学生ボランティアを募集し活動の支援を行いました。その際、ボランティア活動は東広島市の社会福祉協議会と連携をとり行うこと、ボランティア保険への加入などの諸注意を徹底することとしました。「オペレーションつながり」を通して大学からスコップや長靴、ペットボトルの水などを提供しました。時間経過と共に、被害状況が甚大である場所も明らかになり、学生をボランティアが必要な場所へ運ぶための借り上げバスの支援も開始しました。

さて、このような体制で、広島大学の多くの学生がボランティア活動に参加していただきました。この事に対し、地域の方々からも感謝の言葉がたくさん寄せられており、広島大学としても大変喜ばしく思っております。

東広島地区では「オペレーションつながり」が、また広島地区では「COCO」の学生ボランティア団体が窓口となって学生ボランティアをまとめていただいた結果、9 月 24 日時点でそれらを通じて延べ 1,300 名を超す学生がボランティア活動を行った事がわかりました。

また、新聞紙上で取り上げられた“国道 2 号線で立ち往生しているドライバーへのおにぎりの配布”という活動も明らかとなり、大学として把握している活動とは別に、広島大学の学生が個別にボランティア活動を行っている事実が多くあることがわかってまいりました。これらの活動について、大学として詳細な情報を把握できていませんでした。しか

しながら、今後、大学としてボランティア活動の支援体制を検討、構築するため、本学の学生が実際にどのようなボランティア活動に関わり、どのような問題点を認識し、どのような気づきを持ったかについて調査するため、アンケート調査を2018年10月3日より10月22日まで実施いたしました。このたびそれらの内容をまとめ、活動していただいた学生さんや東広島市の社会福祉協議会に公表したいと考え、冊子体にいたしました。この冊子の内容が、今後の大学生のボランティア活動のさらなる充実の糧となり、また、大学として、このような災害が起こった際にどのような支援を行っていくべきかの参考になることを祈念して、今回のボランティア活動アンケート結果の冒頭の挨拶とさせていただきます。

平成31年1月吉日
広島大学副学長（学生支援担当）
古澤修一

アンケート作成／集計結果参照

(参加者アンケート)西日本豪雨災害ボランティア活動状況について

対象者数	16,193人
回答者数	235人
回答率	1.45%

1：ボランティアは、「オペレーションつながり(東広島)」「COCO(霞)」から参加しましたか？

回答番号	回答
はい	110人
いいえ	125人

2：「オペレーションつながり(東広島)」「COCO(霞)」以外で参加した場合での参加方法を記入ください

人数	回答
39	東広島市社会福祉協議会から
12	呉市社会福祉協議会から
11	安芸区社会福祉協議会から
10	三原市社会福祉協議会から
3	広島市社会福祉協議会から
2	海田町社会福祉協議会から
1	庄原市社会福祉協議会から
1	竹原市社会福祉協議会から
2	愛媛県
6	「イマジナス」というNPO団体から
26	不明
2	その他

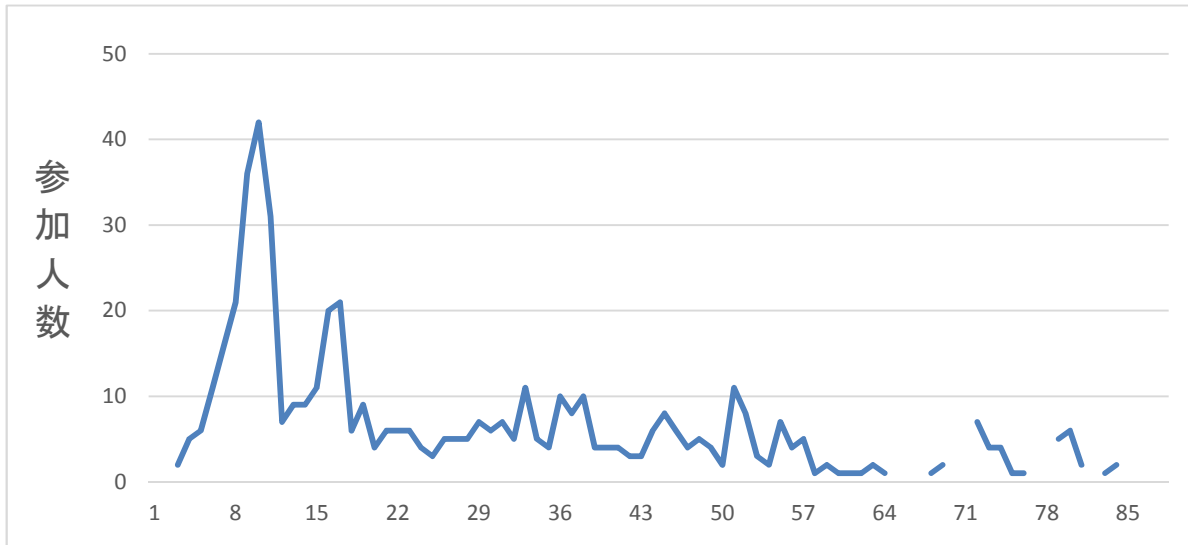
3：ボランティアは、いつ参加しましたか

災害発生後(日)	人数	参加日
1		7月6日災害発生
2		7月7日災害発生
3	2	7月8日(日曜)
4	5	7月9日
5	6	7月10日
6	11	7月11日
7	16	7月12日
8	21	7月13日
9	36	7月14日(土曜)
10	42	7月15日(日曜)
11	31	7月16日
12	7	7月17日
14	9	7月18日
15	9	7月19日
16	11	7月20日
17	20	7月21日(土曜)
18	21	7月22日(日曜)
19	6	7月23日
20	9	7月24日
21	4	7月25日
22	6	7月26日
23	6	7月27日
24	6	7月28日(土曜)
25	4	7月29日(日曜)
26	3	7月30日
27	5	7月31日

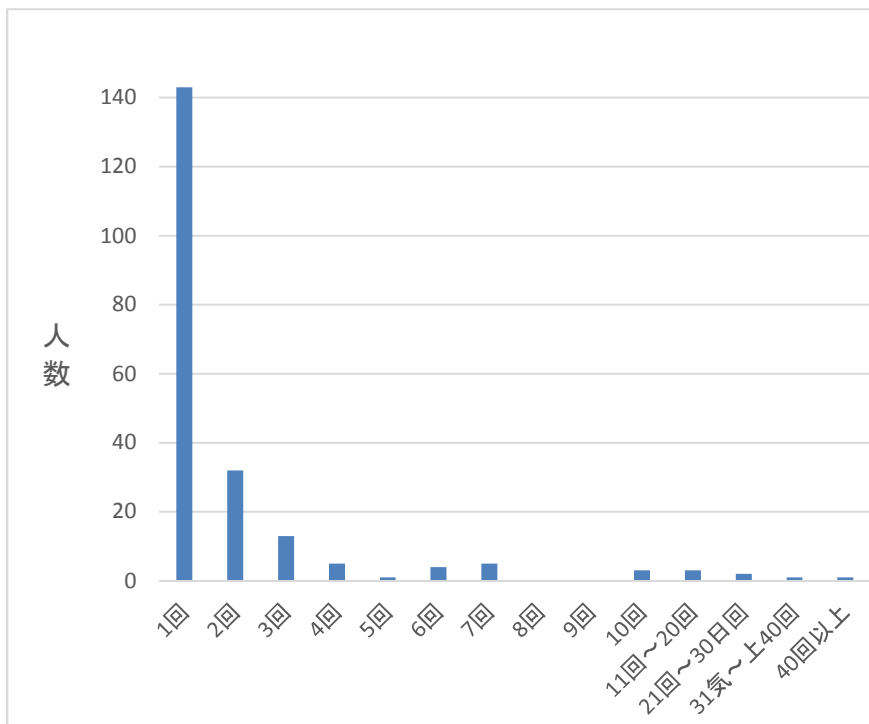
	22	7月中(日時不明)
28	5	8月1日
29	5	8月2日
30	7	8月3日
31	6	8月4日(土曜)
32	7	8月5日(日曜)
33	5	8月6日
34	11	8月7日
35	5	7月8日
36	4	7月9日
37	10	8月10日
38	8	8月11日(土曜)
39	10	8月12日(日曜)
40	4	8月13日
41	4	8月14日
42	4	8月15日
43	3	8月16日
44	3	8月17日
45	6	8月18日(土曜)
46	8	8月19日(日曜)
47	6	8月20日
48	4	8月21日
49	5	8月22日
50	4	8月23日
51	2	8月24日
52	11	8月25日(土曜)
53	8	8月26日(日曜)
54	3	8月27日
55	2	8月28日
56	7	8月29日
57	4	8月30日
58	5	8月31日
	21	8月中(日時不明)
59	1	9月1日(土曜)
60	2	9月2日(日曜)
61	1	9月3日
62	1	9月4日
63	1	9月5日
64	2	9月6日
65	1	9月7日
66		9月8日(土曜)
67		9月9日(日曜)
68		9月10日
69	1	9月11日
70	2	9月12日
71		9月13日
72		9月14日
73	7	9月15日(土曜)
74	4	9月16日(日曜)
75	4	9月17日
76	1	9月18日
77	1	9月19日
78		9月20日
79		9月21日
80	5	9月22日(土曜)
81	6	9月23日(日曜)
82	2	9月24日
83		9月25日
84	1	9月26日

85	2	9月27日
86		9月28日
87		9月29日(土曜)
88		9月30日(日曜)
89		10月7日(日曜)
	4	不明
以後不明		

合計 延べ564人 10月22日時点



災害発生後の日数(参加不明日を除く)



一人あたりの参加回数平均:2.6回/人

4：ボランティアとして活動した地域を教えてください

番号	出動回数	地域名
1	31	東広島市
2	53	東広島市安芸津
3	18	東広島市志和
4	15	東広島市高屋
5	10	東広島市黒瀬
6	10	東広島市八本松
7	6	東広島市河内
8	2	東広島市三永
9	2	東広島市郷曾
10	1	東広島市本郷
11	1	東広島市小谷
12	33	広島県安芸郡海田
13	11	広島県安芸郡坂町
14	3	広島県安芸郡矢野
15	4	広島県安芸郡府中
16	1	広島県安芸郡熊野
17	9	広島市安芸区中野
18	3	広島市安芸区瀬野
19	3	広島市安芸区矢野
20	6	広島市南区似島町
21	1	広島市南区日宇那
22	4	広島市安佐北区
23	2	広島市西区大芝
24	1	広島市東区戸坂山根
25	64	呉市安浦町
26	4	呉市音戸町
27	2	呉市安浦町市原
28	2	呉市天応
29	2	呉市江田島
30	1	呉市吉浦町
31	1	呉市阿賀南
32	1	呉市広
33	1	呉市阿賀
34	1	庄原市東城町
35	13	三原市
36	4	竹原市
37	1	尾道市
38	1	愛媛県西予市野村町
39	1	愛媛県北宇和郡松野町
40	1	愛媛県宇和島市吉田町

合計 330箇所 40地域

5：怪我(病気)があった方にうかがいます、どのような怪我(病気)ですか？

回答番号	回答
1	毛虫に刺されたことによる発疹と猛烈な痒み
2	右目の充血(持参したゴーグルは密着度が弱く、他のボランティアの方が舞い上げた土が右目に入ったため。)
3	土砂が目には散って、目が腫れた。(土砂による感染症との診断でした)
4	軽度の熱中症のような症状に二日目はなったが、家帰って休んだら大丈夫だった。
5	手にかすり傷ができましたが、怪我や病気はありません。

6：現場でのボランティアのニーズは何だったですか？

人数	ニーズ	
216	土砂撤去	(59%)
90	家財撤去	(24%)
25	物資支援	(7%)
5	子供、高齢者の見守り	(2%)
33	その他	(9%)

7：現場でのボランティアのニーズについて「その他」を教えてください

回答番号	回答
1	ボランティアセンターの運営、ニーズ調査
2	土のう作り
3	器材の管理、ボランティア受付会場設営
4	受付
5	ニーズ調査や受付
6	ボランティア運営側の人手
7	運営側の人数が足りていませんでした。
8	参加していないのでわかりません。
9	ボランティアセンターの運営
10	農地の土砂撤去、ボランティアの活動支援
11	ニーズ調査、ボランティアセンター運営補助
12	みかん農家の手伝い
13	壁や床下骨組みの拭き掃除
14	砂利を引いたり小屋の掃除をするなどの整備。
16	夏だったので暑さに耐えられる、または慣れている人
17	土嚢の運搬、清掃、除菌
18	避難所駐在職員と避難者の橋渡し、避難者(学生)の学習支援、支援物資の仕分け、その他避難所内の手伝い
22	土嚢作り・運搬、掃除など
23	被災地の自宅で暮らす住民の健康調査
24	家屋の掃除、清掃
25	家具の移動
27	子どもの学習支援、子ども食堂でのお世話
28	土砂の洗い流し
29	通院、買い物をしたいが交通の足がない。災害発生から3日程度経てば町内の食糧事情等は落ち着いたが、そこに行く交通機関がないので送り迎えを頻繁に行った。

8：ボランティアとしてどのようなことをしましたか？

人数	作業内容	
204	土砂撤去	(61%)
73	家財撤去	(22%)
8	物資支援	(2%)
4	子供、高齢者の見守り	(1%)
45	その他	(13%)

9：どのようなボランティアをしたか「その他」を教えてください

回答番号	回答
1	土のう作り、器材管理、設営、必要事項記入要項やボランティア案内のプリントの印刷などの事務作業
2	ニーズ調査や受付
3	支援物資の整理、倉庫内軽作業
4	ボランティアセンターの運営支援

5	土砂除去を行なっている被災者の方やボランティア参加者のための水分準備や昼食準備等
6	運営
7	市役所PCへの罹災証明書などの書類整理
8	土のうつみ
9	府中町災害ボランティアセンターにて、パソコンを用いた情報処理
10	東広島市社会福祉協議会と共に、ボランティアセンターの運営を行った（OPETATIONつながり所属）。
11	家の中の土砂を撤去したあと、床下のコンクリートを洗浄した
12	地域活性化 お盆に帰省してくる人も含めて子どもから大人まで楽しめるビアガーデンを開き、そのボランティアに参加した。（町民の難を労い復興に向けて団結するという趣旨？）
13	床板洗浄などの清掃作業
14	ニーズ調査、東広島市ボランティアセンター運営補助
15	一般家庭での土砂撤去
16	現地案内、ボランティアセンターの受付、飲料やタオルをボランティアに参加している人に配るなどのボランティアセンターの手伝い
17	床下骨組みの拭き掃除
18	ボランティアセンターの運営
19	災害ごみと土砂を分別する作業もしました。
20	土嚢の運搬
21	避難所駐在職員と避難者の橋渡し、避難者(学生)の学習支援、支援物資の仕分け・配布、その他避難所内の手伝い
22	水に濡れた公文書が固まって乾いてしまっているのを1枚ずつ丁寧に開いて、カビを拭き取り、泥をぬぐい、また乾燥する作業。土砂撤去、家財撤去
23	土嚢作り・運搬、掃除など
24	自宅訪問と健康調査
25	家屋の掃除、清掃
26	現場に行くボランティアの誘導とボランティアにあたっての注意説明
27	ボランティア本部運営補助
28	東広島市役所で罹災・被災証明書発行手続きのお手伝い、被災地の住所の記録作業のお手伝い
29	子どもの学習支援、子ども食堂でのお世話
30	交通弱者のための送り迎え。募金活動。

10：実際に参加してみて、今後ボランティア活動の課題があるとすればどのようなものだと感じていますか？

人数	課題	
37	物資不足	(9%)
92	情報不足	(21%)
158	人手不足	(37%)
84	経験不足	(20%)
7	防犯の欠如	(2%)
25	ボランティア活動の内容	(6%)
25	その他	(6%)

11：実際に参加してみて、今後ボランティア活動の課題で「その他」の方、ご記入ください

回答番号	回答
1	フェニックス入試の学生です。ボランティア自体初めての経験であり、仕事内容も土砂の撤去など体力を要するものだった。若い人たちの働き方に比べると作業も遅く、効率が悪かった。（足手まといになったとは思わないが）自分自身の体力消耗が気になり、十分な貢献ができなかった。どの時期にどのようなボランティアが必要なのか、情報を事前に確認し、冷静に判断すべきであった。

2	周りを気にせず知識をひけらかす人や勝手に行動する人をどう処分するかについて、ボランティア募集の広告をより効果的に打ち出すための方策について(威張る人を消せばボランティア経験のない人でも参加しやすくなるはず)
3	休憩時間が多く効率が悪い
4	熱中症対策
5	ボランティアと現場とのコミュニケーション。私が参加したボランティアでは、現場とボランティアセンターとの連絡不足で、間違った場所にボランティアが誘導されてしまった。そのため、暑い中再度移動しなければならず体力を消耗した。
6	知らない人同士でチームが組まれるより、知り合い同士は同じチームに入れた方が、連携等もとれるし、休憩のタイミングも気兼ねなく言うことができるので良いと思う。
7	ボランティアを求めている人との連絡をきちんと行うこと。
8	そもそも友人に聞くまでボランティア活動を行っていることを知らなかったの、周知をより徹底させる必要があると感じた。
9	熱中症対策
10	私は神奈川在住ですが、広島大学の学生として出来る限り積極的に参加したいと思いました。ところが、あまりダイレクトに情報が入ってくることがなく、被災史料の件でも、日本史専攻者だけでは手が足りないの、地域研究領域にといった感じでした。今後はどんな種類のボランティア活動が、どのような形で開催されているかを学生に広く告知してもいいんじゃないでしょうか。専攻内で内々に情報がまわっているような印象を受けたので。(実際にはもしかしたら広く呼びかけているのかもしれないので、わかりませんが)
11	熱中症や感染症に対する危機意識や対策意識の向上
12	ボランティアセンターの人が運営のノウハウを把握できていないように感じた。結果、多くのボランティアが集まったにも関わらずさばけておらず、また、どのようなニーズがあるか、何人必要か、現在ボランティアを募集しているかなどの情報発信が当初はできていなかった。
13	ボランティア間の連携不足
14	ボランティアの要請に登録している人と、明らかに手伝いが必要そうだが登録していない人に差があった。
15	この仕事では実際行くまで何をするのか知らず。スポーツドリンクを持参しジャージで行ったのに事務作業だった。
16	被災者の需要把握
17	自分は2000年の芸予地震で被災し、ボランティアでは東日本大震災や八木の土砂災害で経験があったけれども、周囲の人は初めての経験で何が必要か、何をかなどを理解してもらおうのが大変だった。また、被災した経験があるので、被災者の人に何故、罹災証明書必要なのかという情報や手続きを伝えてあげたりしました。
18	呉市までの道のりにおいて、山間部の家の土砂撤去が進んでいない。ボランティアを呼んでいないのだろうか。・ボランティアに訪れた地域は災害があったはずであるが、すぐ隣では新築が何件も建っており、被害について理解が進んでいるのか分からない。・学生ボランティア団体の活動内容が不明確、人数や能力に沿わない。現地のボランティア団体との連携不足。活動目的の不明瞭さ。当日同じ場所で活動していた中学生の団体は先生の指導の元、的確な活動をされていた。・9月末時点で復興の兆しは見えたと感じる。
19	ボランティアに初めて参加したが、ボランティア先の社会福祉協議会もボランティア受け入れが初めてだったため、どこにどんな支援が必要なのかお互いわからなかった。とりあえず人の流れに沿ってなんとなくその場の土砂を掻き出したが、実はそこは重機が入って作業できる場所だった。これでは時間も人手も無駄になってしまうと感じた。ボランティアと社会福祉協議会の仲介に入るようなボランティア団体が必要なのではないかと思った。その団体が人を振り分けたり、具体的な作業内容を指示してくれればもっと効率よく土砂が撤去できたのではないかと思う。社会福祉協議会の方も高齢の方が多く暑い中休みなく毎日ボランティア対応に当たっており、そちらへの支援も必要なのではないかと感じた。

20	時間に余裕のある人が、被災された方のために動くことは重要だと思った。被災直後の市役所の混乱を肌で感じた。アルバイトを雇うなら、日頃から準備をすべきだと思った。
21	各家屋の被災状況が整理されきってなかったため器材不足、人手不足が多かった。その原因となる設営側の人で不足が最も大きな課題だと感じた。
22	お手伝いに入った家の方(旦那さん)が目が不自由で、障害のある方に対して災害時にどのように接したりサポートしたりすればいいのかわからなかった。
23	力仕事は全然力になれなかった。女性向きの募集を別個でしてくれればいいのかと思った
24	この度広島大学は、7月17日という公共交通機関がまだままならないときから早期に授業再開されました。夏休み以降も実際にボランティアが必要ではありましたが、一番ボランティアさんの力が必要な時期の早期授業再開には疑念を持ちざる負えません。むしろ、大学をあげてあの時期のボランティア派遣をしてくだされば、もっと早く助かった地域はたくさんあると思います。というか、あの時期の通学者は通勤者に迷惑でしかなかったと思われます。
25	ボランティアする側はもっと被災者の気持ちを考えるべきだと思った。家の中が土砂だらけだとしても断りもなしに土足で上がるべきではないし、自分のボランティア活動は1日で終わっても被災者の方は私たちの想像以上に疲れがたまっていることを想像すべき。
26	ボランティアの供給側、需要側の意識のギャップや適切なマッチングの必要性が課題であると感じた。
27	大人ももちろん、子どもの心のケアの必要性。一時的なものではなく、先を見通した継続的計画的なボランティア活動の募集
28	土砂撤去の方は、個人参加でしたが、やはり人手が必要です。後、暑かったので、ボランティア活動中に熱中症になりかけることがあるので、水分補給が重要です。被災史料は、8月～9月の間、(火)(木)(土)で開催され、幅広く歴史や博物館や図書館、美術館関係者(基本的に広大関係者)が参加しました。私は神奈川在住の社会人大学院生で東京で勤務があったため、土曜1日しか参加できませんでしたが、継続的な取り組みが必要ですし、日本史専攻と地域研究領域に限定せずに、広く呼びかけてはいけないのかな?と少し思いました。ただ、作業スペースの問題で、たくさん参加すれば良いというものでもないのかもしれませんが。10月～12月も継続して開催されるそうで、論文関係で大学へいく時には、また被災史料修復ボランティアに参加したいです。広大のホームページ(大学文書館のページにリンク)では7月17日に被災史料修復ボランティア活動が行われたと記されるに留まっていますが、むしろ8月～9月の方が、多くの広大の学生達も関わる大規模な活動が行われたと思いました。今回、広島歴史資料ネットワークの会員になりました。毎年被災資料修復に役立てられる会員費を支払う他、活動の連絡が入ります。

12：ボランティアに参加して、自分自身感じたこと、気持ちの変化等聞かせてください

回答番号	回答
1	ボランティアを通してお手伝いできたことはほんの少力で、まだまだ人手が足りないような状況でしたが、実際に被害に遭われた地域をみて、ボランティアの重要性を改めて感じ実感する事ができた。自分にできることは本当に限られているが、これからも何らかの形で出来ることを行なっていきたいと思った。
2	参加してよかったとつくづく思いました。
3	上記と関係するが、経験がないまま、ハードな作業に参加をしボランティアの大変さを痛感した。被災された人は年齢や体力に関係なく被災という現実に向き合っておられるわけだが、自分がより役立てる場面をよく考えて参加すべきだと痛感した。大きな災害では、長期のボランティアを必要としていると思うので、今後も情報には目を通してできることはしたいと思う。また、義援金の提供も大切なことだと感じた。
4	少しでも、復興に向けて何か行動に移すことができたらよいと思った

5	ボランティアに参加する前は、体力が持つかどうか不安だったが、参加してみると、休憩が15分毎に設定されていたので、2日連続の参加でも体調を崩すことなく作業できた。そのため次の週末も参加しようという気持ちを持てた。私ができることはほんの少しだが、依頼者の方の生活の役に立てたかもしれないと思うと、参加してよかったと思った。初心者であっても役立てたのは、作業環境を整えてくださったスタッフの方のおかげであると思う。感謝している。しかし、私ができる事は全体のニーズのごく一部であったことが悔しくも思った。ニーズはあと8割くらい残っているそうなので、もしまたボランティアバスができれば参加したいと思っている。
6	災害で苦しんでいる方にとっては、一人でも人手が増えると、大変大きな力になると感じました。広島大学に入学したことがきっかけで、広島のことをたくさん知ることができたので、若者として広島のために今後もできることを継続したいです。
7	7月に被災地のボランティアに行ってきました。つい先日、身近で大きな災害が起こって、ニュースを見ながら知っている土地の変わりようや、災害の悲惨さに毎日心を痛めつつも、今までと変わらない日常を送らせてもらっている自分がいて…当たり前があることは、とてもありがたくて幸せなことで、もちろんそんな毎日を大切にすることが1番大事なことだと思うけれど、こんなにも近くにいて、しかも私は大学生で、何かできることがあるんじゃないかなって思うようになりました。体力に自信がある方ではなかったし、私なんかで役に立つのだろうかかと初めは少し迷ったけど、ボランティアに実際に行っている人の姿に背中を押されて、ボランティアに行くことにしました。声をかけたら、喜んで一緒に行ってくれる同期がいて、良い同期をもったなと改めて感じさせられました。きっと、私が行くことができた一日で私がお手伝いできたことは本当に微力なことだと思うし、ボランティアに行ったことで、満足するのはもちろん違いますが、私でも少しながらもお手伝いすることができたことや、そんなお手伝いを求めている人が沢山いることを発信することも、できることの1つであり、意味のあることなのかなって思って、口頭やSNSなどを通して周りの人たちに発信してみたりもしています。真夏の一番暑い時期だったので、暑かったかと言われれば、もちろん暑かったし、楽だったかと聞かれれば、楽ではなかったし、でも、行ってよかったかって聞かれたら、間違いなく行ってよかったと即答できます。進路などの関係からたった1日しかない貢献できていないけれど、これからもなにかしらの形で、ボランティアに協力していきたいと思います。
8	復旧・復興とは一言で表現しにくいですが、現場に行くことで被災地の変化は顕著に感じることができた。
9	テレビで観るのと実際に行ってみるのは全然違う。1回ボランティアに行けば、自分だけ遊んでる場合じゃないと思える。
10	初めての参加でしたが、被災した家屋や土砂が床下めで浸水している様を見てとてもいたたまれない気持ちになりました。また、被災された方々がとても親切に接してくれ力になりたいと心から思いました。
11	災害の現場を実際に目の当たりにすることにより、被害の状況が五感で感じられた。それによって、今回の豪雨災害の当事者意識が生まれるとともに、今後の災害と真剣に向き合えるようになった。
12	支援の難しさ。支援する側が負担を増やしてはいけない。自己管理。そのためのボランティア管理。入念な準備、事前説明、途中休憩、活動後の消毒等が大切で、それ故に実際に活動できる時間は短い。効率的な活動が必要。リーダーが必要。
13	大学生になって初めてボランティアをしてみて、人手不足の深刻さを痛感した。おそらく自分のような、行かなければならないけど一歩が出ない、という学生は多いだろう。そのような学生たちが一歩踏み出せるかどうか、またボランティア団体の広報活動などにより、少しずつ人手不足は解消されていくのではないかと考える。災害ボランティアは他人事であったが、すんでいる地域ということもあって参加した。深刻な状況であることは、さまざまな地域(北海道の地震など)でも同様であるだろうから、自身の行ける範囲で参加するようにしていきたい。
14	被災地はもう前を向いていた。やるべきことをわかっていた。自分は1, 2回しか参加できなかったのもっと参加したい。

15	自分自身の経験不足、協調性の重要性(協調性のない人がチームにいたため)、考えながら取り組むことの重要性(特に後半になるにつれて)リーダーとしてチームで成果を出すために、個としての活動ではなくチームのサポート役に回ることが多かったように感じる。毎回班員からフィードバックをもらい次に活かしていたが、今後も役に立つ習慣を身につけられたと感じる。
16	ボランティアとして、見ず知らずの人と一緒に活動することは新鮮だった。少しでも被災者の方の力になれたようでうれしく感じた。
17	機材の入らないマンション等の駐車場に流れ込んだ土砂の撤去は手作業になりますが、水を含んでおり重たいので体力を奪い、大変さを感じました。土日は手伝うことができても平日は研究室などがあり難しいので、常に人手は足りていなかったのではないかと思います。9月でボランティア自身が熱中症になることをよくニュースで見ました。その際に、逆に迷惑になるというような発言をみて、ボランティアしたくても億劫になる人が多いと感じました。ボランティアの会場では水の配布など多くの対策がされていたので、そこまで体力に自信がない人でもできることがたくさんあるように感じ、それをもっと周知されていたら人がより集まるように思いました。ボランティアの人の体力に合わせてボランティアの内容を変えられるようなルールがあらかじめ決められていたらより潤滑に行えるのではないかと思います。
18	たった1日の活動であったのにも関わらず、現地の方々から感謝の言葉を多くいただき、より自分にできることを行いたいと感じた。
19	自然災害を体験した者にしか分からないものがある中で、それをどういう風に人に伝えていくか。展示であったり、語部であったりはあるが、若者からするとあまり魅力的ではない。ただ、自分の地域で起こった時に困って欲しくない、そんな気持ちが強いので自分は教師を目指し、災害などがあれば、生徒を現場に運ばせたい。かなり理想的な夢ではあるが、その信念を固めることができた。
20	報道されない被災された方々が大量にいること、そんな中でも一生懸命に復旧作業を進めている人々が大量にいる現実を知った。
21	土日は地域の人間で作業ができていたが、平日になるとみんな仕事で急に人手不足になった姿を見て、いまできる人ができることを。ということを感じた。また、実際にその土地を訪れることで自然の恐ろしさを感じ、防災への意識が高まった。
22	まずは目の前に広がる風景を見て絶句した。ものすごく暑かったけど、若い人もいれば仕事を休んで来たというサラリーマンの人もいて色々な話をでき、こういう機会がなければ出会うことがなかった人と交流できて(不謹慎と言われるかもしれないけど)新鮮で楽しかった。家財を撤去する際、机の引き出しから泥まみれになった写真やノート、食器棚に4つずつあるお皿やグラスなどこの家の思い出が詰まっているであろう物を処分するのがとても辛くて泣きそうになった。依頼者の方が本当にありがとう助かりましたと何度もお礼を言ってくださったが困ったときは助け合いなのでなんだかくすぐったかった。4年前の土砂災害では何もできなかったけど、今回は参加できて力になれて本当に良かった。行った地域はもうボランティア募集をしていないみたいなので、今度様子を見に行きたいと思う。長くなってしまった…。
23	大学生8人がかりで、家屋に入った土砂を撤去したが、1日かけても1棟しかできなかった。災害は一瞬のうちに起こるが、被災地の復興に向けての作業は、何日も何十日もかかると思った。天災のおそろしさや人間の非力さにゾッとした。また、ボランティアはアルバイトと違って、何時までに何をしなければならぬといったノルマがない。しかも、15分おきに、15分の休憩がある。作業者の健康と安全を十分すぎるほど確保していた。重労働と感じないからこそ、「また行こう」と、参加者も多くなるのだと思う。と同時に、作業にとっても時間がかかっている理由に納得した。
24	10人くらいで一生懸命やっても一日では完全に土砂の撤去が終わらなかったのもっとちくさんの人がボランティアに参加すること、そしてそれを受け入れるシステムができれば良いと思った。
25	想像以上に大変で多くの人出がまだ必要だと感じた。

26	「炎天下のもと働くのが大変そう、という理由でボランティアに誘っても来てくれない人が多い」と婦人たちが嘆いていたが、ボランティアには事務作業もあるし、そもそも外での活動でも熱中症対策で15分作業15分休憩という内容で活動していたため、か弱い成人女性でも暑くてしんどいということはないと思う。そういったボランティア活動の現状を正しく広めてより多くの人に活動してもらえればもっと早く援助ができたと思う。また、ボランティアは金をもらえるわけではないし、自分の時間が奪われて「自己犠牲に他ならない」とボランティア前は思っていたが、いざボランティアしてみると、現地の人にスイカやトマトを差し入れてもらったり、トイレを快く貸して下さったり、現地の人と15分休憩中にお話したりして、ボランティア後は不思議と満ちたりた気分になった。「ボランティアは時間や経済的には自己犠牲だが、心にその対価が払われるという点では等価交換だ」ということを学んだ22歳夏であった。
27	丸一日空いてないと行きづらい、車がないと行きづらい、等の要因から、私も含め力になりたいがなれない状況があったように思う。
28	普段生活をしている場所が一瞬にして変化し、普段通りの生活ができなくなるという現実を目の当たりにし人間の力が及ばない自然災害の恐ろしさやそれに対するやるせなさを痛感しました。
29	実際に現場に足を運ぶと、災害の悲惨さや被害に遭われた方の心の傷の深さを、肌で感じる事ができた一方で、ボランティアの人手不足や、被害の風化によるボランティアの減少が課題であると感じた。私がボランティアに参加した時は、災害が起きて間もない時期だったこともあり、たくさんの方がボランティアに参加していた。そこには私たち学生だけでなく、社会人の方や外国人の方も参加していた。皆さん、お忙しい中、さらには休日にも関わらず、自分にできることを探して積極的に活動している姿を見て、学生である私も頑張ろうと思えたとし、被害に遭われた方のために力になりたいと感じた。ボランティアに参加して良かったと思う。
30	自分ができることは何かと考えて何も出来ずに無力感を感じていたが、ボランティアをしたことで落ち着いた。
31	今まで災害のニュースと見てもどこか他人事のように思えたが、参加後は自分の周りでも十分に起こり得ることだと感じるようになった。
32	必要とされていることを肌で感じる事ができボランティアに参加してよかったと思っている。
33	個人からの支援物資は、数が中途半端であったり、必要のないものだったりして、廃棄されることが多いので、もったいないと思った。
34	被災された方がボランティアに非常に感謝していただいて、やりがいがあった。報道で伝わってないことも多く、現地を見て感じたことが多かった。熱中症や感染症対策のためにも、たくさんの医療者が必要だと実感した。
35	ボランティアに行ったものの、自分の体力不足で、あまり役に立てなかった。
36	災害復興には、少しずつ片付けて行かないといけないんだなあと思った
37	思った以上に休憩などの管理などがしっかりされており、誰でも活動しやすい環境だったように思う。運動不足でも十分戦力となれたと思う。
38	ヘドロの除去の担当で、男手が必要とされていた。できることは限られていたのに、被災者の方は本当に感謝されていて、もどかしかった。日本では災害が多いので、どのような人にどのようなことができるのか、システムティックにまとめられていたら、いざというときにも素人にも手伝えやすくなるとおもう。
39	協力することで一人では無理なことも大人数であれば成し遂げられることを実感した。
40	少しの支援だとしても、進んですべきだと思う。
41	実際に被災地を目にし、自分の防災意識が変わった。これまでは災害はどこか現実味のないものだったが、ボランティアを通して、災害はいつ自分の身に起きてもおかしくないこと、いざ起こった時にどう行動できるかを考えるようになった。
42	依頼者の方に喜んでもらったのでやりがいを感じました。
43	暑い中、県外からたくさんの方が来られていて嬉しかった。学生の参加が少ないと思った
44	本当に行動を起こさなければ何も助けにならないのかもしれない

45	西条町も土砂崩れなどがありましたが、道路は早く復旧し、私がボランティアに参加した頃には身の回りでは災害の跡が目立たなくなっていました。しかし今回のボランティアに参加し、土砂崩れの爪痕が未だ強く残る被災地を見たこと、災害後の後片付け等から改めて今回の災害が大きなものであったこと、身近なものであったことを感じました。ボランティア活動経験がないことから、参加しがたいもののように感じていましたが、全国からたくさんのボランティアの方々が参加しており、指示をいただけたので初めてでも関係なく活動できたと感じます。
46	実家も南海トラフ地震で必ず被災するので、被災後の動きについて県や市のホームページを見て確認するよう親に伝えた。
47	私は被害の大きかった呉市在住で、自宅が幸いなことに何も被害が無く、ボランティアセンターが設置された呉市役所から近い場所にあるのでボランティアに積極的に参加できました。ボランティアに参加する人は自分と同じように呉市、遠くてせいぜい広島県内に住んでいるとばかり思い込んでいましたが、県外からいらっしゃった方も少なくなく、わざわざ呉まで来てくださったことに感動しました。社会福祉協議会のスタッフの方も札幌、東京、九州など日本全国から駆けつけてくださっていて、自分は日本の多くの人に支えられて生きているのだということを実感しました。私は今回初めて災害ボランティアに参加しましたが、ボランティアとはいえやはり経験が必要なのだと感じました。数回目の参加で私はグループのリーダーを任されたのですが、活動と休憩の時間の管理やグループメンバーの体調の管理など、注意しなければならない点がたくさんあり、自分のすることで精一杯だった私はメンバーの皆さんに多大なるご迷惑をかけてしまいました。私のように今回から初めて災害ボランティアに参加するという方も多く、経験者が少しでも多くいてくれれば作業がもっとスムーズになるだろうなと思いました。
48	災害の影響が生活を困難にしていることが伝わってきた。実際に行かないとわからない、感じ取れないようなことがわかった
49	復旧の苦労が身に染みて分かった。JR山陽本線の復旧はもっと大変だったのだろうなと思う。
50	人手が不足しているのがよく分かったので、広島の災害ということで地元の広島の大学から長期的に支援が継続してできたらいいと思いました。
51	時期も真夏日だったことから、思っていたよりもかなりしんどいなと感じました。私が行った所は、15分交代制で、看護師さんまで複数待機している、かなり至れり尽くせりなところでしたが、それでもしんどかったです。被災者の方々の苦労も想像されました。人手不足や被災者の家を回る順番？はやはり大きな問題なのではないでしょうか。
52	災害ボランティアに参加したのは初めてでした。自分自身何かできることはないか考えていたので少しでもお役に立てたならよいのですが、なにより痛感したのは自分自身の経験不足でした。今後は広島県の災害対策などについてもより情報を手に入れるように心がけるとともに、ボランティア活動の種類や内容などもしっかりと把握し、最大限の力でボランティア活動に貢献できるよう準備を心がけていきたいと思えます。
53	被害に合われた方々が一番大変なので、助け合いの精神で若い力を中心として積極的にボランティア活動をするのが大切だと感じました。
54	私が参加した時は、既に災害発生から時間が経過していたこともあり、「私が行ってすることはあるのだろうか？」と思っていました。しかし、実際に参加してみるとまだまだ人手が足りておらず、やるべきことはあると痛感しました。また、その場で初めて会う人とのコミュニケーションや協力体制が私自身うまく取れず、もっと普段から身につけておけばよかったとも思いました。その日は平日にもかかわらず他県から仕事を休まれて参加された方もいて、人の温かさなどを考えさせられました。
55	普段の生活が恵まれている。
56	災害にあわれた方々はどのような状況でもたくましかったため、見習うべきだと感じました。
57	人間の温かみを感じると同時に、命の尊さを再認識する機会となりました
58	苦しい状況にも関わらず、ボランティアの私達を気遣ってくれたことに感動しました。

59	西条に住んでいると、災害の大きさについて深く考えることがなかったですが、実際に現場に足を運んでみると、今回の災害が甚大な被害をもたらしたことを知る機会になりました。また、現地の方がありがとう。と言ってくださることで、私自身もたくさん救われました。今回は一回しか参加できなかったですが、また何かの機会を見つけて参加できたらと思います。
60	私が行かせていただいた地域は、そこまで被害が大きいところではなかったのですが、高齢者が多いところだったためもっと若い人の力が必要だと感じました
61	少しでも困っている人の助けになればと思い、ボランティアに参加しました。ボランティアの日は暑く、力仕事も多かったため大変でした。しかし作業が終わったあと、依頼者の方から感謝の言葉とともにいただいたアイスはとてもおいしかったです。自分でも人の役に立てた、助けられたと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。ボランティアではお金などの見返りはもらえませんが、そのようなお金のようない見返りがなくとも人を助けるといった気持ちこそが大事なのではないかと考えました。ボランティアに参加したことで、人間のもつ温かみの一端に触れることができたのではないかと感じました。
62	今まで自分が何かしたい気持ちはあったため、今回は少しでも人のために動けたのならよかったと思う。しかし、夏の肉体労働の厳しさと自分の体の弱さを思い知った。これからも、何かできることがあるならばしたいが、自分が周りの足を引っ張ってしまうかもしれないので少し尻込みするようになった。
63	1回しか行けなかったのもっとたくさんいければよかった、もっと役に立ちたかった。
64	初めて実際の被害の現状を目の当たりにして、事の重大さを改めて実感した。このような体験自体が初めてだったのでとても印象深く心に残った。また今回は人手不足にとっても困っているという印象を受けた。一人でも何かできることはないかと思い立ってボランティア活動に参加することはとても大事だと感じた。
65	実際に土砂撤去を経験したり、現場の様子を見ることで想像以上に深刻な被害に遭っていることが分かった。テレビや新聞を見るだけではなく、大学や他の団体を通じて自分の足で現地に行くことが大切だと考える。
66	ボランティアに参加してみて、大変な作業を毎日続けている被災地の方には本当に頭があがらないなと思いました。まだまだボランティアが必要だなとも感じました。
67	災害から2ヶ月ほど経ってから参加したが、だんだんと少なくなった報道とは裏腹に、まだまだ人手が必要だなと感じた。
68	人手が足りませんでした。
69	ボランティアの意義には、災害救助だけでなく、参加者自身の教育的な目的もあるように感じた。
70	土砂は重たく、想像以上に体力が必要だった。被害は広範囲に及ぶのに、手作業でしか行えない部分もあり、人手不足を感じた。女性だけでやると力仕事が多い分、なかなか作業が進まないこともわかった。暑い中、マスクをつけて長袖長ズボンでの作業は本当に大変だった。また、被害を目の当たりにして言葉がでなかった。現場を見て、作業をしてみて、現場の厳しさを痛感した。
71	飲み物や差し入れをたくさんいただいて申し訳なかった。また機会があれば行くべきだと思った。何度かボランティアにきたことのある人が自主的にリーダーとなって指揮をとっており立派に見えた。
72	暑い中多くの人が集まって土砂を撤去したが、そのあとにまた大雨が降ったり、台風がやってくるととても悔しくてやるせなかった。
73	テレビや新聞で見るとより、より現状を知ることができた。被災された方の生の声を聞くことができた。自分の身近に災害は起こりうるというのを改めて実感した。

74	OPERATIONつなかりに所属している者です。ボランティアセンターを運営するにあたり、東広島市社会福祉協議会の方と一緒に東広島市を見て回り、被害状況を確認するなどのニーズ調査に同行したり、ボランティアに参加してくださった方々にそのニーズを伝えてどのように活動してほしいか等を伝えるという業務を行いました。多くの人とお話し、優しさとは、強さとは、というものを学ばせていただきました。家が土砂に埋もれてしまった方が、「我が家はみんな無事だからまだマシ。他の人の所を先に手伝いに行ってくださいな」と話してくださったり、「普段はあいさつもあまりしない近所の団地の方々が集まって、土砂かきに来てくださったんですよ」というお話を聞くことがあり、思いやりを持つこと、協力すること、の美しさに触れることができました。今後もニーズがある限り、そういった方々のお手伝いをしていければと思います。
75	土砂の撤去は力仕事で大変疲れたが、少しずつ進んで行く復興の手助けになれたのかなと思った。広大でボランティアに行く感謝されて嬉しかった。一般のボランティアの方とも話せて楽しかった。参加したあとニュースで呉のことを聞くとどうなってるかなと気になるようになった。
76	今回の西日本豪雨では、幸い自分自身に被害はなかったが、少し遠くに目をやると、道路が寸断されていたり、土砂や浸水の被害に遭った場所がたくさんあった。また、呉市にあるアルバイト先の個別指導塾の生徒たちも休校で、ボランティアに参加したりと、身近に被害を感じており、何かできないかなと思い参加した。正直なところ、私自身、そこまでボランティアに興味はなかったが、今回は何かできることをやらないと思った。大学が1週間で再開され、その後は教育実習があるため、継続的に参加できなかったことが、とても申し訳ないが、ニーズがあれば是非参加したいと思う。
77	食糧不足などはあったが、今回の豪雨災害は私が住んでいる地域にはあまり被害を及ぼさなかったうえ、日頃あまりニュースを見る習慣がなく家にテレビもないため、ボランティアに参加して初めて今回の被害の甚大さに気づいた。また機会があれば参加したい。
78	一回だけの参加でなく、継続した支援が必要だと感じた。
79	被害にあった方は意外と前向きでこちらとしても元気をもらった。自分がどれだけ力になれたのかは分からないが、とても感謝されて来てよかったなと思った。募金などもいいが、実際現地で手伝うのが一番いいと思う。
80	他人事ではない気持ちになった
81	土をスコップですくって土嚢を作る作業であったが、予想以上に土が重くて驚いた。私は参加したのは1回だけだが、何回もやっている人は本当に凄いなと思った。
82	被災された方の苦労を改めて感じ、力になりたいと思った。ボランティアの必要性をひしひしと感じた。
83	暑い中での作業だったので、ボランティアを派遣する側も、ボランティアを受け入れている被災者の方も熱中症などにとても気を使ってくれていたことが印象に残っている。実際に近所や住んでいる県内じゃないと災害やその被害について実感できないこともあると思った。
84	災害をひとつとだと思わずに困っている人がいたら助け合うという相互扶助の精神を学んだ。
85	初回は全くの未経験だったので役に立てるか不安だったが、それでもきちんと自分の役割をこなすことができ、次回以降の参加への意欲につながったので、まずは一回でも参加してみることが重要だと感じた。
86	誰しもボランティア活動は参加することは、ボランティアについて考えるきっかけになり、協力している、あるいは人の役にたっているということを実感できた。
87	実際に被災した方の声を災害直後に直接聞くことができ、少しでも役に立ちたいと強く思った。大学生の自分だからこそ話してくれることがあるということや、活気づいたパワーを被災地に与えることができると感じた。
88	1日のみの参加ではあったが、貴重な経験になった。被害の深刻さと猛暑の中での作業ということを踏まえると、住民の方の負担は計り知れないと感じた。

89	これまで災害が身の回りで起きたことがなく、ボランティアは初めてでした。大丈夫と思って当然、という考え方が変わったように思います。参加した日は受け付けにかなり人が並んでいましたが、それでも作業の人数は足りてなかったのでは、という印象でした。
90	継続的ボランティア支援が必要不可欠だと感じました。
91	少ししか尽力できなかったが、とても感謝してくださってボランティアに参加して良かったと思えた。
92	想像以上に大変で本当に一日終わると疲労感で一杯であった。
93	災害から1ヶ月たって現地に伺った時、報道があまりされなくなっているけれど、以前の生活には戻れていない方はたくさんいると知りました。
94	平日行ったので、人数は少ないだろうと思っていたけど、その日も各地からボランティアの人達が集まっていて、見返りを求めることなく善意の気持ちだけで活動しており、その人たちの心構えを見習いたいと思いました。
95	継続的に続けるべきだと感じました。
96	大量の土砂が家の中にまで入っていて、それを人の手で書きだす作業は大変きつかった。自然の力の強さを感じた。また、ボランティアの活動は人の役に立てるのでやりがいがあると思った。
97	今回の豪雨災害でボランティアに参加したのが初めてでしたが、ボランティアに行った先の家の方や一緒に行った他の学生の人たちと豪雨当時の状況やいろいろなお話ができたのでいい経験になったと思います。また、土砂撤去が終わったのちの芽には見えない人々の心のケアも必要なのではないかとも思いました。
98	未だに残る生々しい災害の傷跡を見て、長期的な支援が必要であるように感じた。
99	復旧段階によってニーズは変化します。その地域の状況や段階に合わせた支援をしていきたいと思っています。
100	思った以上に状況がひどく、もっと人手が必要だと思いました。
101	またボランティアのための物資(試供品、タオル、飲み物、アイス、かき氷など)多くあり複雑な気持ちになりました。
102	発生当初は生活するのも困難な状態で、衝撃を受けました。初めてのことで、特に実働では力仕事はなかなか出来ず、不甲斐なさを感じたこともありましたが、一緒に活動した方々や社協の方、沢山の方々に支えていただき、活動させていただくことができました。東広島市は9月上旬にほぼニーズが完了したのですが、ほかの地域では今もなおボランティアを必要としている方もいらっしゃいます。また、心の支援の方でもニーズはあると思います。今後も被災者の方々に寄り添えるような支援を続けていきたいと思いました。
103	いい経験になった。 自分はこれまでボランティアにあまり参加した経験がなかった為、少しでも被災者の役に立てたらという思いで今回このボランティアに参加しました。実際に行ってみると本当に体力が必要でかなり体に負荷がかかりましたがそれでも一緒にボランティアに参加した人と協力することで着々と作業を進めることができました。この経験を通して学んだことは1人でも多くの方がボランティアに参加することが復興への近道になるということです。特に近年は災害が頻発しているのでそんな時こそ1人でも多くのボランティアが集まって協力することが必要だと思います。
104	車が土砂の中に埋まっていたり家の中まで土砂が侵入していた様子を見て、それらを片付けて元の生活に戻るには人手がまったく足りなく、かなりの時間がかかるように思った。しかしある程度の土砂を撤去でき、その家の方から感謝された際に非常に達成感とやりがいを感じた。
105	若い人の力がもっとも必要だと感じた。
106	交通費など、ボランティアの負担が減ればもっと参加しやすい。
107	微力ではあるが復旧の手助けをできてよかったです。
108	感謝されることはとても気持ちいいものだった。また、助け合いの精神は、必要であり、今後とも機会があれば行きたいと思った。
109	1回サッカー一部で参加した時に、ボランティアの人手不足と大変さを痛感しました。

110	社会福祉協議会に集まった人たちがグループを組んで、指定された家庭へ伺いましたが、全員がこうしたボランティアの経験がなく、はじめはどうしたらよいかの戸惑いがありました。被災された方からの期待も大きく、事前の作業の具体的な内容、方法についてのレクチャーがあれば良かったかなと思いました。はじめの戸惑いはあったものの、しっかりとボランティアに従事でき、とても感謝して頂きました。
111	若者の力は必要だと感じたし東京オリンピックのボランティアのボランティアとは意味が違うと思った。後者に参加するくらいなら前者に参加したほうが余程ためになるし世の中のためになると思った。
112	災害の被害に関して、実際に見てみないと分からないことが多くあることに気が付けた。
113	もっと人手が必要だと思った。ひどい被害だった。
114	みんなでなんとかしようという気持ちがとても感じれて、非常に気持ちよくボランティア活動が行えたと思う。有意義な時間を過ごせた。いい経験になった。
115	ボランティアに参加してみて、想像以上に多くの人が様々な形で関わってくれていることに驚いたが、それでも人手は足りていないと感じた。
116	やれることはなんでもやりたいです。
117	力仕事には参加できませんでしたが、自分の住んでいる地域のためになにかしたいと思っていたので少しでも役に立てたのでよかったですと思います。私の地域は田舎で交通の便もいい方ではないのに、いろんな所からボランティアの方々が手伝いに来てくださって感動しました。最初は土砂だらけでめちゃくちゃだった所もだんだん以前のようにきれいになっていく様子を見て安心しました。あまりボランティアに参加できなくて、もっと手伝えればよかったなという思いはあるけど地域のつながりや力を実感できて、参加してよかったと思った。
118	ボランティアに積極的に参加しないといけないと感じた
119	人手不足
120	ボランティアに参加せずに実家に帰る人が周りに多くて悲しかった
121	ボランティアに参加するまでは、どの程度まで復旧が進んでいるのかあまり知りませんが、実際に見てみてまだまだ支援が必要だと実感しました。機会があればまた参加したいです。
122	同じ県内でもここまで被害に差があるのかと驚きました。家の中や道幅が狭いところなど、人の力ではないと土砂を撤去できない所が多くあり、今後もボランティアの力が必要だと感じました。
123	地元である呉市が被災して、非常に心が痛んだ。落ち込んでいても何も始まらないと思いボランティアに参加したが、力仕事も十分にできず、浸水した家具や家の床をどのように撤去・修理したらいいのかもわからず、とにかく災害に対して自分が無力であることを痛感した。大学で災害・防災の授業をとっていたにもかかわらず、応用することもできず本当に情けなかった。
124	4年前の土砂災害の時は高校生で何もできなかったため今回は参加しようと思い応募した。行く前は視覚的な情報しかなかったのだが、行ってみると土砂の臭いがすごく、耐えられないほどだった。行って初めて気づくこともあるし、少しでも被災者の方の力になれていたら嬉しく思う。一番感じたのはもう災害が起こらないでほしいということだ。
125	ボランティアに参加すると多くの経験豊富な方がいたので、安心して作業を進めることができました。テレビではなく実施に現地に入ってこの目で現状を見る事ができ、災害の悲惨さを見にしみて感じる事ができました。ボランティア活動はかなり体力を使うが、被災された方からありがとうと感謝の言葉をいただいたり地域の方とお話しもできたりして、楽しさを見出すこともできました。少しでも役に立つ事ができたのではないかとと思うと嬉しくなります。
126	思ったよりも大変だった。
127	同じ町内に住んでいながらここまでの被害が出ていたことを知らなかったので少し驚いた。何かしたくて一人で社会福祉協議会に行きましたが、そういう人でもスムーズに参加できたのでよかった。またとても暑い日だったが水分補給の声掛けも徹底されていて部活よりも休憩が多かった(笑)

128	自分の力がだれかのためになっているという実感が持てた。災害を身近なものであると感じ、防災についての意識が高まった。
129	他の参加者とも徐々に協力体制が確立されてきてよかった。(例えばシャベルの様子を見て交互に使うことでより効率的に作業できた)
130	自分たちより年上の方が砂利をスコップで掻き出すなどしていて、負担が大きそうだと感じた。また、災害から2カ月経っていたのにまだ復旧できていないところがあることに驚き、他の被災地域にもまだ支援が必要なのだということを実感した。
131	実際に参加してニュースで聞いていた以上の被害を見た。しかしニュースの映像も自分が身に行った場所も被害があった場所の一部であり、実際はより自分の知らないところでもまだ作業の進んでいない場所もあり、限られた人手で作業を行っているという現実を知った。
132	私の実家がある呉市が被災して変わり果てた状況を目の当たりにして、衝撃を受けました。身の回りで災害が起こり、これからの危機感を感じました。
133	一日の作業でできることは限られているため、継続的な支援が必要だと感じました。
134	私がボランティアに行った際、日曜日だということにもかかわらず私の他にたくさんの方たちが来ていた。人間の助け合おうといった気持ちというのは素晴らしいものだなどと再確認することができた。そして、ボランティアに行きながら新たに気づいたことが1つあった。それはボランティアというものは損得感情を抜きにした活動だと今まで思っていたが、一緒にボランティア活動した方たちのお話を聞いたところによると、ボランティアに来てくれるように娯楽施設の利用にかかる費用や交通費などの保障といったような様々な処置が取られているということだ。私が行った現場ではこういった制度を活用してはるばる熊本県から来ていた方もいた。その方は北海道で地震があった際にもボランティアに行ったということで非常に素晴らしい方だなと感じた。こういったボランティア活動に従事したいと考えている方たちにとってより良い制度を整備していくことによって被災した地域の復興も早まり、その地域の方々の負担をより早く減らせるようになっていくと思う。ボランティアに参加する方たちと災害で被害にあった方たち両方ともに寄り添える制度を整備していくことが大事だということに今回のボランティア活動に参加して気づくことができた。
135	作業内容を聞いた時より大変な作業だった。作業に必要な道具は、団体の方が配っていたやつの方が持参してきたやつよりいいものだった。新潟大学という遠方からきた方もいて驚いた。
136	自分自身も以前被災して、大変な思いをしたので今回少しでも被災者の方のお役に立つことが出来て嬉しかった。ボランティアに伺ったお宅で、まだ生活が大変なのに私たちボランティアの体調や心配をしてくださって、人の温かさを感じた。また、災害の恐ろしさを改めて強く感じた。
137	ボランティアに参加するまで、その地域の被害状況に関して得ることができる手段がほとんどなく、現地の実際の状況をあまり把握しないままボランティアに参加することになったため、もし今後ボランティアに行くことがあるなら、事前に現地の写真や状況を把握したうえで参加するようにしたい。実際に体験して思ったことは、圧倒的に人手が足りておらず、特に田舎の方では機械や行政の人も不足していた、ということだ。もし災害で被害を受けた際に、場所や年齢によらず、いつでもどこでも誰でもニーズの発信をできる体制を整える必要があると感じた。特に田舎の方では高齢者が多いため、土砂撤去などの作業には限界があるし、そのような作業をしている際に転んだり倒れたりされる可能性もあるので、いかに力作業をこなすか、二次災害をどのように防ぐかを十分に検討する必要があると思った。しかし私が参加した地域の人々は、自分たちが1番苦しい状況にいるのにも関わらず、私たちに対して感謝の気持ちをたくさん伝えてくださって、作業中も自分たちより私たちのことを気にかけて下さっていたことが印象的だった。
138	地元の人から「ありがとう」という言葉をもらって、「ボランティアに参加してよかった」とより感じた。

139	初めてボランティアに参加させていただきました。今まで様々な災害が起きていますが、大変だ、何かしてあげたいと思うだけで、行動に移すことができませんでした。ですが、今回の豪雨災害では、自分自身も命の危険を感じた上に、広島県内がひどい被害を受けていました。そこで、何か自分にできることはないかと考え、友達と一緒にボランティアに参加することにしました。目の前で見た被害状況は、想像以上にひどかったです。家の床下は土砂で一面が覆われ、池の水のような臭いがしました。家具なども濡れてしまい、家の外で干していました。家にはもう住めない状態でした。日が経つにつれて、豪雨災害のニュースが減っている気がしますが、まだまだ被災地の方は苦しんでおられます。土砂の撤去には体力と労力があるにも関わらず、人手が足りていないように感じます。一度しか参加できませんでしたが、貴重な経験になりました。被災地の皆さんは頑張っておられるのだから、そのサポートに少しでもなれたことがよかったなと思います。
140	私が行った家はほとんど片付いていましたが、両隣の家は手付かずの状態でした。人力でないと難しい作業がまだまだ残っているので多くの人に手伝ってもらいたいと思いました。
141	同じ市内で、こんなにも被害状況が違うことに驚いた。
142	拘束時間に対して労働時間が少なく感じた。
143	土砂撤去は重労働だったため、2日以上連続して参加するのは難しい。また、自分達の手では取り除けない土砂は業者に頼ってしまいがちだった。
144	ニュースで取り上げられている場所以外にも、被害が深刻な地域がある。そのような所はまだまだ手付かずで人手が足りないと思った。
145	まだまだすべきことが多く残っていた。自分も呉市に住んでいて、自分の町でも犠牲者が出たり断水になったりしたときに自然の怖さを知った。また、今までは気が付けなかった物資や水のありがたみが十分にわかった。
146	手作業でないとできない部分が多いにも関わらず住民の方は自宅内のことで精いっぱい、外のたまった土砂はもの凄い量で、住民の方の力のみでは手のつけようがなさそうなくらいだった。何度も繰り返したくさんの方がボランティアに参加すべきだと思った。
147	想像よりはるかにひどい被害だった。僕が手伝いをした家で、思い出となるようなものをたくさん捨てていくのを見て心が苦しかった。
148	ボランティアの人手が圧倒的に足りなかった。ボランティアは誰かがやってくれると思っていたが、決してそんなことはなく、自分から行動することが大切だと思った。
149	結構な力作業であることに驚きました。それでも、ボランティアに参加したおかげで、被害にあわれた方々が活気づいた気がしてうれしく思いました。
150	自然の恐ろしさと復興はそう簡単なことではないということが分かった。人のつながりや優しさをすごく感じた。
151	大変だった
152	広島だけでなく他県からも多くの方がボランティアに参加していて感激した。日本は災害大国なので今回のように、協力していくことが最も重要であると思った。今後もボランティアには積極的に参加していきたいと思った。
153	お互い様の精神で大変なときも助け合うことが大切だと感じた。
154	思いのほか組織的にボランティアを管理するシステムが整っていることを実感した。地域ボランティアだったため、心理的にも被災者と対等な立場に着くことができた。資材や服装などは完全に自分で用意する必要があるが、ボランティアに参加するための準備も含めてボランティアであるというのを感じた。
155	私は呉市の出身で黒瀬川下流域に実家があります。災害で実家は1週間断水が続き、西条にいる私は帰ろうにも帰れませんでした。そんな中、実家が断水になりながらも高校が臨時休業になった妹が、友達とボランティアに何度も足を運んでいました。そのことを聞いて私も絶対に行こうと思い、参加しました。実際に天応地区に行くともあまりの悲惨さに心が痛みましたが、助け合うことの大切さと思いやりを感じました。

156	ボランティアに参加して、人間関係が広がった。参加する人と参加しない人ははっきりわかれていて、参加する人は何度も参加するし参加しない人は募集やニーズがあることすら知らないのだろうと思った、
157	最初の作業は、とても暑くて大変だった。あの暑さの中、ボランティアは大きな力になったと思う。これから、涼しくなってくるので作業しやすくなると思います。まだまだニーズは残っていると思うので、力になれたらと思います。
158	これからもっと積極的にボランティアに参加するべきだと思った。
159	私は災害ボランティアに初めて参加しましたが、参加してよかったと感じています。正直に言うと、炎天下の中の土砂撤去はかなり大変に感じましたが、「被災された方々はこの大変な作業を毎日やっているんだ」「他のボランティアの学生も皆頑張っている」と考えると、頑張らずにはいられませんでした。そして最後に、依頼者の方々から「ありがとう、本当に助かった。」という言葉を受けたときは、心の底から嬉しく思い、頑張ってよかったと強く思いました。災害は様々な犠牲をもたらしますが、人々とのつながりや絆を強くしてくれるものだとつくづく感じました。これからも、このような災害ボランティア活動に積極的に参加し、人々の役に立っていきたいと思います。
160	被災された方自信も大変な中、私に言葉をかけていただいたり感謝されたりして、うれしかった。そうやって人間は支え合って生きていかなければならないと感じた。
161	まったく報道されていないエリアだったのに、被害が甚大で驚いた。行ってみれば、広大生が個人やゼミで活動していたので、情報共有ができればよかった。
162	広島という地域への愛が強まりました。被災史料修復については、私は公文書館に勤務していますので、普段から史料への愛着も知識、技能もあり、これまで他の地域でもボランティア活動に参加してきました。しかし、慣れ親しんだ土地の被災を目の当たりにする中で行った土砂撤去作業その他諸々の活動が、災害への危機意識を高め、広島を守りたい、広島に貢献したいという気持ちを強くさせました。
163	報道されているのはほんの一部であり、実際に現場に行き自分で見ないとわからないことが多い。自分の無力さを感じるが、何もできないよりはよかったかもしれない。重機の入れない所での作業も多く、多くの人手が必要である。
164	今回の豪雨は地球温暖化が影響していると聞きました。自分が無事だったから良かったということではなく、地元広島の問題として、また自然災害の多い日本の問題として、もしかしたら地球規模の問題として、人間本位の開発を見直し、自然と共存する方向性を真剣に考えなければいけないのではないかと感じました。保健学の立場からみても、例えば夜は明かりを小さくして就寝する、どこにでも車を使うのではなく時々歩いてみるなど、人にやさしい生活は、地球にやさしい行動と共通項が多いように感じます。私たちは人の健康をテーマに研究していますが、霞キャンパスの中だけでなく、いろいろな専門の方と情報交換できたらいいなと思いました。
165	役にたててよかった。
166	災害が起きる度、いつもメディアを通して「人手が足りません」と報道されてもよく分からなかったのが、今回初めてボランティアに参加させていただいて、住宅の土砂の片付けなどのお手伝いをする中で実感しました。家財や畳など腐敗も進むので、早めに撤去しないといけないことも分かり、ボランティアって本当に必要なんだなと思いました。しかも、どう振る舞っていいのかわからず、もどかしさを抱えて帰って来ました。

167	一度だけではあるが、知人の家周辺の片付けを手伝った。土砂の運び出しは想像以上の重労働で、時間も手間も必要であった。特に女性や高齢者の方には自分で作業するのは大変な困難であり、若い人手が重要であると感じた。各種団体や自治体を通じて参加する際、大抵の場合は参加要件・持ち物として長靴が指定されている。しかし、一人暮らしだと長靴は持っていない場合が多く、ボランティアに参加するためだけに購入するのも正直ためらってしまう。もちろん普通のスニーカー等では危険があることも承知しているが、参加するために色々準備する必要があるのは一つのハードルであると感じた。もっと軽装で参加できていいのではないか(事故や怪我の危険があるため主催者側としては受け入れ難いのは重々承知ではあるが)。また、つい先日被災された方と会って話をしたところ、家の近所で今も毎日作業が続いている場所や、未だにほとんど手つかずの場所もあると聞いた。また時間があれば作業に加わりたいたいと思っている。
168	まだまだ復旧できていない箇所がたくさんあった。現地の方は、休日をつぶして作業されているようで、ボランティアによる継続的な支援が必要だと感じた。
169	被災された方々に対してどのような態度で寄り添えば良いかが分からず戸惑いが多かった。
170	各人努力していました
171	初めてボランティアに参加したが、猛暑ということもあり計3時間の作業でさえも予想以上に体力が奪われた。これを年配の方々が毎日行うとなると負担は計り知れないと思った。ボランティア活動は複数のグループで共同で行ったので、高校生から社会人まで様々な人が「困っている方の助けになりたい」という思いをもって集い、真剣に取り組んでいるのを目の当たりにして、とても刺激を受けた。ボランティア経験はないが、グループリーダーとして活動させていただいたので、自分の糧になると思う。
172	初めてボランティアに参加したためどこまで役に立てたかはわからないが、機会があればまたやりたいと思った。困っている人は全員で助け合うべきだと思った。
173	災害の状況を生で見ることができ、被害状況の大きさを知ることができた。ボランティアとして関わることで、助け合いの精神の大切さを気づくことができた。
174	もっと多くの大学生が参加すべきだと感じた。単位が少ない大学生は社会体験として行ってみると良い
175	少しでも被災地の人たちのお役に立てたいという思いで参加しました。実際に行ってみたら、やっぱり災害の恐ろしさに驚かせました。今後は災害がないように.....私自身にとっても本当にいい経験でした。
176	ボランティア活動は長期的な視点で取り組むことが必要だと思いました。私は1日だけ参加しましたが、被災された方は長期にわたって家の片づけをしたり、前の生活を送ろうとすると、土砂の撤去などの他に精神的な面で相談を行えるボランティアもいた方が良かった。また被災された方の方は、ボランティアを受け入れるとその人たちへの飲み物やタオルなど配慮するで負担が増えている気がした。
177	昨年、地元の大分が被災した際、広島大学の学生がボランティアに参加してくれていた。その方は、広島土砂災害のお返しと言っていた。今回は私が広島に恩返しすることで、ボランティアのリレーができたように思う。
178	実際に被害に遭った地域を見てみると、住宅の造りによってどのような場所にどの程度の被害があったかが異なっているため、テレビやSNSなどの情報はあくまで断片的でしかないのだと改めて感じた。ボランティア活動に関しては、そのあり方や参加者の自己満足に陥っていないかなどということから肯定的な見方をしない人もいるだろうが、参加者のモチベーションや動機がどうであれ、実際に人手が必要になる。もちろん被害に遭われた方への配慮は必要不可欠だが、今回のようなケースでは多くの人が「行動すること」が重要だと感じた。
179	やりがいの搾取はあってはならないと感じた。
180	災害ボランティアの経験は初めてではなかったが、自分の住む街がこんなにも大きな被害を被ることになるとは思っていなかった。被害の大きい現地に赴いたときは唖然とした。ボランティア先のお家の方がアイスや飲み物を差し入れてくださり、大変な中、お気遣いをいただいたのが嬉しかった。

181	災害発生から時間がたった今でも、自分たちのできることはたくさんあるように感じた。発災当時に、何かしたいと強く思う学生は多かったと思うが、どうすれば力になれるかは分からないと思う学生も多かったように思う。マンパワーのある学生が少しでも行動できるようにするために、自分たちに何ができるのか、何をすべきなのかを災害が起こっていない時にも考える意義があると感じました。
182	一度の大雨でここまで人々の暮らしに影響を与えるのかと思い、驚いた。ボランティアに参加する側、ボランティアを受け入れる側、双方の思いやり(謙虚な姿勢、感謝の心)がボランティアを促進していく上で大切だと思った。
183	夏季休暇を1ヶ月早めて豪雨以降の講義を後期に回すべきだと感じた。そうすれば平日でもより多くの学生がボランティア活動することができたのではないか。
184	呉市安浦町に行った時には人手がたくさん必要だと感じた。また参加者から聞いた話では、チームのメンバーで女性や高齢者が多いと、男性に負担が偏ってしまうと聞いた。実際私も参加してみて、自分一人の力は些細なものであると感じたため、自分一人で参加する事だけで満足せず自分の周りにいる人、特によく働けそうな人を巻き込んで参加し、参加者を増やすべきだと思った。
185	すごくやり甲斐のあることです。
186	やりがいを感じられた。宿泊代さえ何とかなれば、何日でも活動したいと感じた。
187	自然の驚異と公的な制度では迅速な復旧にはつながらず、地域の人やボランティアの力でしか復旧できない場所がたくさんあり、大変であることを感じた。しかし、復旧していく様子を見て、人の力の素晴らしさも感じた。
188	復旧には人手が必要で、地道に地道に進んで行くしかないこと。
189	災害当初は各自でできそうなことをやるだけで、具体的に復旧に向けた作業ができなかったが、ボランティアでまとめてもらうことで、効率よく行なえた。
190	1日、1人では変わらない。継続が必要
191	5人グループで1軒のお宅の土砂撤去と汚れてしまった家財撤去を行いました。今回担当した家では、家具や畳などが水を吸ってしまい、想像以上に重量があったり、運搬に労力が必要とされていました。災害の形態によって労力の大きい作業は異なるとは思いますが、豪雨災害では水による損害が非常に大きいということを感じました。
192	私たちが普段生活し、見慣れている町がニュースなどで被災してる現状を見て、いてもたってもいられなくなり参加しました。実際の被災現場はメディアが報じているよりひどく、自衛隊の方たちも多く参加されていたことが印象的で、その時には初めて自分たちの住む町が被災地になってしまったんだと感じました。今までの人生でこんな身近で被災が起きた経験がなく、その気持ちは他のボランティア参加者の方も同じだったようで、作業効率としては決して良いものではなかったかのもかもしれませんが、被災された方も含め人々の諦めないという強い気持ちに圧倒されたのを覚えています。7月20日以降予定が合わずボランティアに行けていませんが、今後も予定を作って必ず参加しようと思っています。
193	自分が行っても体調を崩して仕事を増やすだけかと思ってなかなかボランティア活動に参加できないでいたが、実際参加してみると自分でも役に立てた。
194	少しでも復興の手助けになればうれしい。
195	今回、理学療法士として非常勤勤務で働いている病院の近くが被災した。患者さんも被災したひとが多く、一度現状を見ておく必要があると思い参加した。こういったものに参加するかしらないかで、かけられる声掛けは変わってくると思う。広大生にはぜひ参加してほしい。
196	高齢者が多い地域では土砂の撤去がボランティア無しでは全くはかどらないように感じ、若い人の力が多く必要であると改めて思いました

197	ボランティアの方々が活動に来てくれるということが、被災された方にとってとても有難いものなんだと感じた。去り際に「あなたたちが来てくれるだけでうれしい」と言ってもらえたことが嬉しく感じ、次も頑張って参加したいと思った。また、限られた時間の中で出来ることはなんだろうと考えてなるべく効率的に動けるよう意識して行動した。自分が出来ることを探しながら参加したことで一回目よりも全体としての達成度が高くなったと感じた。
198	最初は大変でしたけど、皆力を合わせて人を助けになれるのは心から嬉しくなりました。被災地の人々は大量の財産を失っても、親切してくださって、一生にも忘れられない経験でした。
199	自然に対して人間ができることの小ささを実感した。1日中作業してもできることは本当に限られているので、継続して参加すること、また、機械の導入が可能なら積極的に利用していくべきだと感じた。
200	ニュースはその時の大きな話題を取り上げるので、時間がたつと報道されず「もう大丈夫なのかな？」と思いがちですが復興には長い時間がかかり、復興のさなかでもそこに生活することを強いられている人々がいるということ、わかっていたつもりでしたが改めて実感しました。
201	災害復興のボランティアは今回が初めてで、夏の炎天下の中大変な作業だったのですが一通り終わったあと、被災者の方から感謝のお言葉を頂けて大変だったけどボランティアに参加してよかったと心から思いました
202	何を捨てるのか、洗ったものをどこに置くのかといったことは、持ち主の意見を細かく聞く必要があり、人でないとできないことだと感じた。
203	東日本大震災など災害の報道は多くされているはずなのに、実際に被災した人の多くは「自分が被災するとは思わなかった」と言っていた。このことから、テレビなどの報道だけでは個人の教訓は伝わらず、実際に災害に触れることが重要だと感じた。被災してから学ぶのではなく、ボランティアで学ぶべきだ。私は、実際に被災していないが、ボランティアに行くことで、災害への危機感を肌身で学んだ。
204	とっさに行動できるようにはなりましたが、周囲の人々が不慣れなので、自分が行動するだけではなく、周囲をどう動かしていくかというマネジメントの知識も必要だなと感じました。
205	災害のボランティア活動には初めて参加しましたが、被災地の方々がとても感謝してくださり、少しだけ力になれて良かったと思いました。現地に行ってみると、テレビで見て想像していた状況よりひどく、初めは驚きました。またいつもは関わらない学部の学生と力を合わせて作業したのもとても良い経験になりました。ただ、ボランティアの経験がない学生だけで現地に向かうと何をして良いのか分からないことも多かったので、チームに一人でも経験者が配属されているとより作業がスムーズに進んでいたのかなと思います。

13: その他、コメントがあれば記入願います

回答番号	回答
1	学生生活支援グループの皆様には本当にお世話になりました。失礼なこともたくさん致したと思います。強力なサポートをありがとうございました。
2	今回の経験で思ったことは、広島大学で地震や火災などの災害が起きたとき、どこに避難をすれいいのか避難経路などを一目見てわかりやすく掲示するなどの取り組みが必要かなと思います。
3	自分が参加した地域では、被害範囲も狭く、人もたくさんおり、町が物資も十分に用意してくださったのでよかったが、他の地域ではそうもいかなかったらと思う。そのため、被害が大きかったり、過疎の地域での復旧活動を個人的には心配している。
4	たくさん広島大学からボランティアバスを出していただいたり広報をしていただいたり、本当にありがとうございました。

5	またこのような災害が起きて欲しくはないですが、最近の情勢を考えると起きても仕方ないかなと思います。その時、是非、事情は分かりますが今回のように早期再開することなく、より地域にあった国立大学としての対応を期待しております。
6	畑や通路から土砂を撤去してくれと言われ作業を続けていたが、もとの姿がわからないためどこまで土を除いて良いものかわからなかった。もともとはこういう状況だった、という写真とかがあれば非常にやりやすかった。
7	バスでの送迎があるならまた是非参加したいと思う。また募集してほしい。
8	つながりなどの活動が始まる前に何かしたいと思って行動し始めたんですが、学校側がつながりを待って下さいみたいな雰囲気だったので、もう少し支援してもらいたかったです。
9	他の大学生にも災害が他人事ではないことを実感してほしい。
10	現地の方から、ボランティアがたくさん来ていたが大人数に指令をだすことが難しかったためあまり仕事ができない人も出てきたという事例を聞き、ボランティアに指示を出せる役員などの人材が必要だと感じた。
12	結論から言うと、広大はバカだと思った。どこのボランティアでも、ボランティアに保険料を請求するところはないのに、初回持って来いって書いてあつて行く気が失せた。そのくらい大学負担すればって思った。その分、市のボランティアはよかった。
13	安浦町のボランティアに関していえば、夏休みシーズンが終わったということにより人手不足が目に見えていた。どうしても時間的・経済的に余裕があるときに限ってしまうが、継続してボランティア活動に参加していきたい。
14	広大からバスを出していただいたり、長靴や手袋を貸し出していただいたりしたことは、本当に助かりました。感謝しております。
15	被災史料の件について。4年前の安佐南区八木地区の時は、1人の広島大学出身の県立高校教諭の呼びかけで、被災史料修復活動が始まりました。それを契機に今回の7月豪雨を契機として広島歴史資料ネットワークが広島大学文書館と広島県立文書館が中心となって設立されました。しかし、今後は後手にならぬよう、いつ起きても常に対処出来るような組織作りや、日頃からの資料修復について学ぶ機会があれば良いなと思いました。
16	現地で活動するのも大切ですが、ボランティアセンターの運営にも積極的に関わっていく方が力になれると思います。
17	ボランティアに参加する上で、やはりクーラーの存在はとても大きいなと思いました。真夏日、気づかぬうちに削られていく体力、不足していく水分。その中で作業をしていくのにクーラーを待機場所に起動してくださったお宅でのボランティアは、大変ではあれどとても作業を捗らせることができたように感じました。そのあたりの空調設備の支援も充実できると、ボランティア側にとってとても大きな支援になると感じました。(それが回りまわって、受け入れ側の支援にも)
18	ボランティアのアンケート調査でしたが、市役所臨時職員として日給をいただき働いた日のことを記入させていただきました
19	時間の都合が合えばまた参加したいです
20	ボランティア参加の機会を作ってください、感謝しています。

あとがき

今回、本学の学生が実際にどのようなボランティア活動に関わっていたかについての情報を得るために、教育室教育部学生生活支援グループから広島大学学生情報の森“もみじ”のアンケートシステムを用いて実施しました。学生団体の“オペレーションつながり”からの報告では、10月時点で延べ1,300名が参加しているとの報告を受けておりますが、今回の数字は延べで564人とどまっております。つまり、ボランティアを実施した多くの学生さん達がアンケートに回答して戴けなかったものと考えております。それゆえ、この報告書には出てきてない、他の多くの活動や課題、気づきがあったものと考えられます。まず、そのことをここでご報告し、今回のアンケート調査の回答率の低さについて皆様にお詫びを申し上げます。このことは、普段から”もみじ”を閲覧している学生が少ないということであり、本学の大きな問題と考えております。

さて、ボランティアという言葉を辞書で調べると、「無償で自発的に社会活動に参加したり、技術や知識を提供したりする人、またはその活動。社会福祉、教育、環境保全、保健など、社会全般を対象とする。一般的にボランティアの理念として、自分から行動すること、ともに支え合い協力し合うこと、見返りを求めないこと、よりよい社会の実現を目指すことがあげられる。（ブリタニカ国際大百科辞典の解説より）」と記載されています。以前、広島大学内でボランティアを単位化できないかと検討を行った事がありますが、学内のボランティア団体と相談したところ、「とんでもない！止めてください。」ということでした。つまり、ボランティアとは上述のように見返りを求めないことなので、見返りとしての単位が欲しいような人がボランティア作業集団に一人でも居ると団体行動ができなくなるので、そういう人にはボランティアに参加して欲しくないという事でした。

今回、学生さん達のボランティア活動の気づきを読ませて戴き、学生さん達が見返り無き活動に自発的に参加し、自分の小さな行動の一步が、他人や自分にも大きな幸せを与えている事を感じ、大きな達成感や、次の行動の目標、自身と社会生活との節点の第一歩として自分は何をしなければならないのか、なにができるのか、等々、沢山の気づきを実感してくれた事がわかりました。この経験は、学生さん方が卒業し、一社会人として生きていく時に、自発的に何をしなければならないのか、何ができるのかなど、今後の皆さんの行動を変えるために、大きな気づきとなったのではないかと思います。

学生さん達の気づきを少し紹介させていただくと、「ボランティアは時間的や経済的には自己犠牲だが、心にその対価が支払われている」や、「人間の温かみを感じると共に、命の尊さを再認識する機会となった」、「人間の持つ温かみの一端に触れることができた」、「思いやりを持つこと、協力することの美しさに触れることができた」、「自分のちょっとした行動が人に役に立っているということを実感できた」、「少しでも役に立ちたいと強く思った」、「被害に遭われた方々が活気づいてくれた気がして嬉しく思った」、「助け合うことの大切さと思いやりを感じた」、「行動することの大事さを感じた」、「復旧

する様子を見て、人の力の素晴らしさを感じた」、「自分たちに何ができるのか、何をすべきなのかを災害が起こる前にも考える意義を感じた」等々、沢山の気づきがありました。

また、今後の参加学生さん達の行動の変化として、「継続した支援が必要だと感じた」、「今後もボランティアには積極的に参加したいと思った」、「機会があればまたボランティアを行いたい」、「防災についての意識が高まった」、「実家の親に防災意識を伝えたいと感じた」、「災害への危機感を肌で感じ取った」等々の気づきが寄せられており、参加された学生さん達の次の行動にも繋がっていることを実感しました。

最後に、ある学生さんが、「災害が起こった際に、広大内で火災や地震が起こった際の避難経路を一目瞭然に掲示する取り組みが必要だと思った」という気づきを紹介してくれました。このことは大学でも承知しており、喫緊の課題として対応をしていきたいと考えております。自身の経験から、このように他の事に応用して課題や提案をしてくれる学生さんが広島大学にいることを知り、大変感動しています。学生さん達の気づきは、他にも素晴らしいものが沢山ありました。

ボランティアとは、できる人が、できる時に、できることを行うものだと私は思っています。ボランティアに参加された学生さん達が、今後、市民生活社会との接点の第二歩を歩み始め、広島大学の卒業生が創る未来が明るくなることを祈念して、私の“あとがき”の言葉とさせて戴きます。皆さん、本当にご苦労様でした。

平成 31 年 1 月 吉日
広島大学副学長（学生支援担当）
古澤修一